

第九代第十一旅団長
酒井陸将補 離任



3月24日、司令部庁舎前において、第9代第11旅団長酒井陸将補の離任行事が行われた。
令和2年3月着任以来、「即応・持続・必遂」を統率方針に、「攻めて守らず」及び「全員一丸」の2点を要望事項に掲げ、旅団がコロナ禍にあっても任務を完遂できるよう、自ら現場に赴いて直接状況を把握し、厳しくも暖かい指導により隊員と共に汗を流し、歩んできた。
酒井前旅団長は3月26日付をもって中部方面總監部幕僚長兼伊丹駐屯地司令（兵庫県）にご帰郷となつた。

第1次旅団演習

（第11旅団司令部付隊・第11音楽隊 訓練検閲）

旅団は令和3年5月23日（29日）までの間、真駒内駐屯地及び上富良野演習場において第1次旅団演習を実施した。本訓練は、第11旅団司令部付隊（隊長水留3佐）、第11音楽隊（隊長吉川2尉）の練度を評価し、その進歩向上を促すことを目的として実施された。



各部隊は応急出動準備命令に基づき駐屯地において隊舎の引継ぎのため物品整理・車両への資材積載及び弾薬・糧食受領、至近距離射撃訓練等を行い万全の出動態勢を確保した。また、11音楽隊は駐屯地総合グラウンドにおいて先遣部隊への慰問演奏を行った。



第11旅団司令部付隊（対空警戒）



第11旅団司令部付隊（障害構成）



第11旅団司令部付隊（陣地構築）



第11音楽隊（障害構成）



第11音楽隊（地域の安全化）

第2次旅団演習

(第11後方支援隊・第11通信隊・第11飛行隊 訓練検閲)

旅団は令和3年7月1日～9日までの間、真駒内駐屯地、滝川駐屯地、丘駐屯地及び北海道大演習場において第2次旅団演習を実施した。

本訓練は、11日昼頃まで「侵攻する敵を島松一帯以北に阻止し方面の攻勢に寄与」すべき任務を有する旅団の作戦行動に係る練度向上を図ることを目的とし、併せて第11後方支援隊(隊長中嶋 1佐)及び第11飛行隊(隊長姫野 2佐)及び第11通信隊(隊長松上 2佐(当時))の練度を評価し、その進歩向上を促すことを目的として実施した。

各部隊は応急出動準備命令に基づき所在駐屯地において、物心両面の準備、射撃訓練、ミッションリハーサル等を実施し、出動態勢を確立した。4日には、展開地域(北海道大演習場)へ前進し、地域の安全化の後、敵の侵攻を阻止すべく防御準備を開始、展開地域では敵に対する警戒や自衛戦闘を実施しつつ、第11後方支援隊は故障車の回収や整備、患者後送等の後方支援を行った。第11通信隊はサイバー・電子攻撃等を見積り、これらに対する抗堪性を確保するとともに、有線構成や保線・埋設等を行って通信組織の構成・維持・運営に努めた。第11飛行隊は航空機運用における関係部隊との調整を密にし、緊急患者空輸や航空偵察、地雷散布等、後方支援及び戦闘支援を行い、旅団の任務達成のために積極的に行動した。

9日、所期の成果を得て本訓練の状況が終了したが、各部隊は今後の課題等を案出し、練度向上の資を得る等、更に進化するものと期待される。



第11後方支援隊 (車両回収)



第11飛行隊 (緊急患者空輸)



第11通信隊 (第一戦救護)



第11通信隊 (襲撃対処)



第11飛行隊 (航空機給油)

部隊長等交代

離任部隊長等

3月



前11旅団司令部付隊長
三等陸佐 瀧田 雄司

第11旅団司令部
【真駒内】へ



前第11飛行隊長
二等陸佐 小丸 隆宏

陸上幕僚監部
【市ヶ谷】へ



前11旅団司令部幕僚長
一等陸佐 根本 正之

西部方面
指揮所訓練支援隊
【健康】へ

8月



前第11戦車隊長
二等陸佐 西田 和也

訓練評価支援隊
【北千歳】へ



前第28普通普通科連隊長
一等陸佐 木場 元大

第4陸曹教育隊長
【天津】へ



前第11通信隊長
二等陸佐 松上 信一郎

通信学校【久里浜】へ



前第11施設隊長
二等陸佐 杉本 昭

陸上総隊司令部
【朝霞】へ

着任部隊長等

3月



第11旅団司令部
【真駒内】から

第11旅団司令部付隊長
三等陸佐 水留 義郎

北部方面総監部
【札幌】から



第11飛行隊長
二等陸佐 姫野 貴信

陸上自衛隊
教育訓練研究本部
【目黒】から



第11旅団司令部幕僚長
一等陸佐 宮野 浩一

8月



第13旅団司令部 2部長
【海田市】から

第11戦車隊長
二等陸佐 弓削 甲司

第4陸曹教育隊長
【天津】から



第28普通普通科連隊長
一等陸佐 長谷部 浩司



陸上幕僚監部
【市ヶ谷】から

第11通信隊長
二等陸佐 鹿毛 満

陸上幕僚監部
【市ヶ谷】から



第11施設隊長
二等陸佐 佐々木 幸太郎

今年も **第11 旅団友の会** は

更なる協力態勢の強化を図り

日本一の協力団体を目指してまいります

坂栄養食品株式会社

代表取締役社長
坂 一俊

第二十八期 第十一師団司令部

株式会社伊藤組

取締役社長
伊藤義郎

第二期 一日第十一師団司令部幕僚長

株式会社ヤマグチモーターズ

代表取締役社長
山口 潔

第十期 一日第十一輸送隊長

伊藤製缶工業株式会社

取締役会長
近藤英夫

第十三期 一日第十一補給隊長

医療法人館歯科医院

理事長
館 裕

第十五期 一日第十一特科連隊第六大隊長

小樽倉庫株式会社

取締役会長
山本信彦

第十九期 第十一特科連隊

株式会社HPI

代表取締役会長
井上俊彌

第三十九期 第十一師団司令部
第三十二期 第十一師団司令部

株式会社新生

代表取締役社長
三輪高士

第二十一期 第十一施設大隊

日本食品製造合資会社

会長
戸部謙一

第二十三期 第十一師団司令部

日本リレント化粧品

代表取締役会長
田嶋忠義

第二十五期 第十一師団司令部

株式会社共栄水産

代表取締役
山室吉博

第二十七期 第十一師団司令部

北武総業株式会社

代表取締役
小西政秀

第二十八期 第十一師団司令部

株式会社おたる政寿司

取締役会長
中村全博

第二十八期 第十一特科連隊第五大隊

医療法人愛安全会

代表取締役社長
赤塚知以

第二十八期 真駒内駐屯地業務隊

榎本商事株式会社

代表取締役社長
白井園義

第二十九期 第十一師団司令部

株式会社ジビネ

代表取締役
佐藤留理子

第二十九期 第十一後方支援連隊

高橋動物病院

名誉院長
高橋 徹

第三十期 第十一高射特科大隊

株式会社エービール

代表取締役
青木定信

第三十一期 第十一師団司令部

石上車輛株式会社

代表取締役
石上 剛

第三十一期 第十一師団司令部付隊

ベル食品株式会社

代表取締役会長
福山恵太郎

第三十一期 第十一施設大隊

株式会社洞内板金工業所

代表取締役
洞内 俊

第三十二期 第十一師団司令部

有限会社

代表取締役
高橋麗秋

第三十二期 第十一後方支援連隊
別連隊長

株式会社 双葉工業社

代表取締役会長
阿部孝司

札幌市東区北區二十二条東一丁目一五十五
電話代表(011)721-1391
第三十二期 第十一飛行隊

株式会社アクアグレース

代表取締役会長
小仲美智子

第三十二期 北部方面輸送隊

札幌中央アーバン株式会社

取締役会長
光地勇一

第三十三期 第十一師団司令部

トーヨーグループ

取締役会長
三好和子

第三十三期 第十八普通科連隊

株式会社アイネス

代表取締役 会長
中崎義昭

第三十三期 第十八普通科連隊

株式会社アイビーウェア

代表取締役会長
齋藤康嗣

第三十三期 第十一飛行隊

日本アリスト会計

代表・税理士
佐々木忠則

第三十四期 第十一飛行隊

弘安倉庫株式会社

代表取締役社長
大星孝幸

第三十五期 第十八普通科連隊

公益社団法人自衛隊家族会
札幌自衛隊家族会北海道地区協議会
会長
武市芳清

第三十五期 第十一特科連隊

株式会社シンワ商会

代表取締役
荒井喜和

第三十五期 第十一施設大隊

株式会社参栄

代表取締役社長
棟方悦子

第三十六期 第十一師団司令部

平岸ハイヤー株式会社

取締役会長
神代澄子

第三十七期 第十一師団司令部付隊

株式会社日本防災技術センター

代表取締役社長
指川 司

第三十七期 第十一後方支援連隊

ワコエ工業株式会社

代表取締役社長
和田一仁

第三十七期 第十一戦車大隊

横山製粉株式会社

代表取締役
横山敏章

第三十八期 第十一戦車大隊

九大大金畜産株式会社

代表取締役社長
大金弘武

第三十八期 第十一施設大隊

税理士法人
知野 寺田会計事務所

代表社員
知野福一郎

第三十八期 第十一師団司令部

株式会社丸大大川組

代表取締役
大川久美子

第三十九期 第十一特科連隊第三大隊

真駒内駐屯地カウンスラー

星 裕子

第四十期 第十一師団司令部

社会医療法人 康和会
札幌しらかば台病院
理事長

加藤康夫

第四十期 第十八普通科連隊

エイジス北海道株式会社

会長
佐藤邦明

第四十二期 第十一後方支援隊

株式会社引谷設計事務所

取締役会長
引谷紀彦

第四十二期 第十一通信中隊

株式会社サイダ

代表取締役
齋田義孝

第四十三期 第十一特科連隊

株式会社テックサプライ

代表取締役
幡 優子

第四十四期 第十八普通科連隊

株式会社北のたまゆら

代表取締役社長
古川和宏

第四十五期 第十一隊司令部

アサヒドックリント株式会社
アサヒビル園 はまなす館

小泉 満

第四十五期 第十八普通科連隊

遠藤興産株式会社

取締役社長
遠藤隆三

第四十五期 第十一施設中隊

株式会社クリンリバー

代表取締役社長
古川浩二

第四十六期 第十一隊司令部

ライラック観光株式会社
有限会社ライラックサービス

代表取締役社長
宮野雅之

第四十六期 第十一隊司令部

株式会社ほくほくホールディングス

代表取締役社長
齋藤浩市

第四十六期 第十一隊司令部

岡本興業株式会社

代表取締役社長
岡本繁美

第四十六期 第十一特科連隊

株式会社クリンコレーション

代表取締役会長
大角忠義

第四十六期 第十一飛行隊

太平洋ホーム株式会社

代表取締役
高橋謙誠

第四十七期 第十八普通科連隊

株式会社成田ボデー

代表取締役
成田一博

第四十七期 第十一施設隊

株式会社社建連警備保障

代表取締役
清水拓也

第四十七期 第十一飛行隊

北海葬祭株式会社

代表取締役会長
松井高志

第四十七期 第十一特殊武器防護隊

JOY OFFICE
T.SUGUMI
有限会社アサミコレーション

代表
山内健嗣

第四十八期 第十一戦車大隊

株式会社MOEホルディングス

代表取締役社長兼CEO
水戸康智

第四十八期 第十一施設隊

大道総合警備株式会社

代表取締役社長
富田直樹

第四十八期 第十一隊司令部付隊

株式会社萬世間札幌本部
営業部セールズ課

代表取締役
土屋美保

第四十九期 第十八普通科連隊

株式会社アイケア北海道

代表取締役
安田友美子

第四十九期 第十一特科連隊

セーフィガード警備株式会社

代表取締役
熊谷優範

第四十九期 第十一後方支援隊

互信ホールディングス株式会社
明星自動車株式会社

代表取締役社長
平島誉久

第四十九期 第十一偵察隊

有限会社平清警備

代表取締役
島津靖喜

第四十九期 第十一施設隊

株式会社社近藤商会

代表取締役
宇佐美 徹

第四十九期 第十一隊司令部付隊

株式会社伸栄建設

代表取締役
浦谷充伸

第五十期 第十八普通科連隊

株式会社啓成ホーム

代表取締役
柴山ひろこ

第五十期 第十一特科連隊

株式会社エコテック

取締役会長
林 弘人

第五十期 第十一戦車大隊

株式会社京王プラザホテル札幌

取締役 総支配人
柴谷 学

第五十期 第十一通信隊

有限会社荒木生花店

代表取締役
荒木康充

第五十一期 第十一隊司令部

泰伸テイクアハウス株式会社

代表取締役会長
小林三紀子

第五十一期 第十一特科隊

株式会社小竹建物

代表取締役
小竹知子

第五十一期 第十一通信隊

株式会社ビルド

代表取締役
高橋智春

第五十一期 第十一隊司令部

札幌東急REIホテル
札幌セルホテル東急
総支配人
江口光彦

第五十一期 第十一後方支援隊

笑顔弁護士
田中燈一

自衛隊の方の相談料「無料」で
うけたまわります。
TEL011-281-5530
FAX011-281-5534
E-mail tota@ttlawoffice.com

株式会社タクシンエンジニア

代表取締役会長
竹内伸治

第五十二期 第十一戦車隊

開発運輸建設株式会社

代表取締役
大塚英夫

第五十二期 第十一高射特科隊

株式会社エムスフード

代表取締役
田上政行

第五十二期 第十一高射特科隊

北海道ポラロン株式会社

代表取締役
中島康成

第五十二期 第十一偵察隊

極東高分子株式会社

代表取締役社長
大野寿之

第五十二期 第十一施設隊

北部方面総監 初度視察

第11旅団及び真駒内駐屯地は6月22日、第40代北部方面総監沖邑陸将の初度視察を受察した。司令部庁舎前で儀仗隊により出迎えた後、状況報告を実施。その後、北部方面音楽隊、自衛隊札幌病院及び駐屯地業務隊を受察した。方面総監は、訓示において統率方針である「即動必遂」、即座に動いて、必ず任務を達成するために「真に戦える実効性のある部隊の創造」、「地域等との連携」、「人間の強化」の3点を述べ、「各部隊長を核心に練度の向上と部隊・隊員の健全の為に頑張ってもらいたい」と期待をこめて要望した。旅団長は受察部隊を代表して「真に戦える部隊の創造・地域等の連携そして人間力の強化の実現を目指しつつ、隊務を邁進して参ります」と述べ、隊員も決意を新たにしました。



駒ヶ岳トレーニングセンター訓練 ~B-KTC訓練~

旅団は3月22日から4月20日までの間、駒ヶ岳演習場において、駒ヶ岳トレーニングセンター訓練(B-KTC)を実施した。本訓練は実戦的環境下における近接戦闘能力及び諸職種協同の能力向上を図ることを目的とし、第10即応機動連隊(連隊長岡田1佐)、第18普通科連隊(連隊長松本1佐)、第28普通科連隊(連隊長木場1佐(当時))及び第11戦車隊(隊長西田2佐(当時))を基幹とし、第11特科隊(隊長廣岡1佐)が協同部隊として参加した。各部隊は、演習場への移動を車両機動訓練の場として活用し、交戦訓練装置を使用して、より実戦的な状況下で機動力を最大限に発揮できるよう協力部隊との調整や連携の強化に努め、小部隊の諸職種協同能力の向上を図る訓練等を得た。



北海道訓練センター実動対抗演習 ~HTC訓練~

第18普通科連隊(連隊長松本1佐)は5月26日から6月11日までの間、北海道訓練センター(HTC)で実施された。本訓練は諸職種による攻撃隊、防衛隊、隊に分かれて対抗方式で実施された。隊は、隊員を警戒した上で、夜間を問わない2日間の築城、敵の攻撃に備えた。対しては「絶対守りぬく」という強い意志を持って、敵の侵入を阻止した。本訓練で共同部隊との機動力の向上を図るとともに、演習場での実戦的な状況下で機動力を最大限に発揮できるよう協力部隊との調整や連携の強化に努め、小部隊の諸職種協同能力の向上を図る訓練等を得た。



第28普通科連隊



第10即応機動連隊



第11後方支援隊



第11戦車隊



第18普通科連隊

旅団レンジャー集合教育

旅団は、第28普通科連隊（連隊長木場1佐（当時））を担任部隊として、5月9日から旅団レンジャー集合教育を開始し、7月24日、全ての訓練を終了して函館駐屯地で帰還式を実施した。

旅団レンジャー集合教育は最も過酷な訓練の一つであり、約3ヶ月にわたり、レンジャー隊員として任務達成に必要な強靱な体力と強い精神力及び高い技術が身に付くよう、体力調整、水路潜入、空路潜入、山地総合訓練等、様々な状況を想定した訓練を実施してきた。

7月中旬からは猛暑日が続き、過酷な状況下での訓練となったが、己に打ち勝つ体力や精神力を持って、同期と助け合い、また切磋琢磨して全任務を完遂した。

帰還式では各部隊の隊員、家族等が見守る中、教官から「レンジャー徽章」が授与され、晴れてレンジャー隊員として認定された学生は汗と涙を流した日々を振り返りつつ「部隊でも更なる知識及び技能の向上と、後輩育成に努めます。」と今後の抱負を語った。

帰還式終了後はそれぞれの駐屯地、部隊から出迎えに駆けつけた同僚、家族らと久々の再会を喜びつつ、過酷な訓練の苦労話に花を咲かせたりするなど、終始笑顔に包まれていた。



10マイル走



帰還式



水路潜入

新隊員前期教育終了

第10即応機動連隊（連隊長岡田1佐）及び第28普通科連隊（連隊長木場1佐（当時））は、令和3年4月から6月までの約3ヶ月間、今年度入隊した自衛官候補生課程教育を担当した。

不安の中にも希望に満ち溢れ、入隊式を終えた自衛官候補生は、教官、助教の熱意ある指導の下、自衛官に必要な基礎的知識・技能を修得するため、基本教練や射撃訓練、戦闘訓練等日々訓練に励んだ。

慣れない集団生活や辛く厳しい訓練に積極果敢に取り組み、苦楽を共にしてきた同期との絆を深め、助け合い、また切磋琢磨した。修了式を迎えた隊員達の顔つきは自信に満ち溢れ、輝いていた。

自衛官としての第一歩を踏み出した自衛官候補生は、それぞれ専門職種毎に、後期教育（3ヶ月）を実施中である。



修了式（第10即応機動連隊）



戦闘訓練（第10即応機動連隊）



行進訓練（第28普通科連隊）

上半期BEST SHOT



第11 高射特科隊 (実射訓練)

撮影：山崎 2 曹 (第11 通信隊)



第10 即応機動連隊 (基本教練)



第18 普通科連隊 (渡河競技会)



第11 後方支援隊 (#2 旅団検閲)



第11 特科隊 (隊訓練)



第28 普通科連隊 (対空射撃)



第11 偵察隊 (山地機動訓練)



第11 施設隊 (春季演習場整備)



第11 戦車隊 (B-KTC)



第11 特殊武器防護隊 (隊訓練)



第11 飛行隊 (ドアガン射撃)



第11 通信隊 (#2 旅団検閲)



第11 旅団司令部 (緊急登庁訓練)



第11 音楽隊 (#1 旅団検閲)



第11 旅団司令部付隊 (演習場整備)

第11旅団公式 SNS & HP を紹介！



HomePage



Twitter



Instagram



YouTube